

先日、陶器の小皿を買った。灰色に白とベージュの水玉模様で、少しいびつな円形が気に入っている。取材先で何度も目にするうちにどうしても欲しくなった。そのことを店内の職員に伝えると「それは縁があったんですね」とほほ笑まれた。

取材先は「ぎやらりーASSA HIYA」。鹿児島市皆与志町の障害者施設「あさひが丘」に

併設され、知的障害や自閉症のある利用者が活動の中で生み出した作品が所狭しと並んでいるギャラリーだ。1日付の新年号で紹介した。「作品が気になって手に取ったら実は作者に障害があった、というような出会いをしてほしい」。運営に携わる日中活動支援課長の新澤杏奈さん(39)は思いを込める。

言葉での意思疎通が難しい

文化生活部・速見由紀子

中、「利用者と協力して作品を完成させたときの達成感がやりがいい」と新澤さんは語る。新型コロナウイルス禍で新たに設けた「アートデー」でも、利用者が自由に創作を楽しむ姿が印象的だった。

「もっと地域の人に気軽に来てもらえる場にしたい」と新澤さん。自由な感性で作られた作品は、作者の障害の有無に関わらず魅力的だ。作品の数だけ結ばれる縁があると思うと、また足を運びたくなる。